

# 小松の自然と文化を融合した、 未来へのかけはしとなるターミナル

北陸新幹線 小松駅



さまざまな角度の三角形を不規則に連続させ、外装材の目地の向きを調整することで、雄大な白山の山並みを表現

## 待望の新幹線駅舎が完成

金沢駅から敦賀駅まで延伸し、2024年3月16日に新駅6つが開業した北陸新幹線。その1つ、小松駅が位置する小松市は石川県内で人口3番目（約10万人）の都市である。

駅舎は、2002年に高架化された在来線駅舎と南北に並行して計画されており、観光交流センター「Komatsu 九（ナイン）」（本誌 vol.38掲載）が一足早く隣接施設として、前年の9月にグランドオープン。すでに、さまざまな出会いが生まれる「きっかけ」の場として、市民や観光客に親しまれ、新幹線駅舎の完成を待つムードをもち立てていた。

## 白山を思わせるダイナミックな駅舎

駅デザインコンセプトは「ふるさとの伝統を未来へつなぐ『ターミナル』」。これを受け、外観は地域の人々が慣れ親しんだ白山の雄大な山並みを想起させるよう、フッ素ガルバリウム鋼板で立体的・多面的な形状を表

現した。

同駅の中心部（拡幅部）は、駅前広場の位置と大きくずれており、駅の正面性が劣るという課題があった。また、中心部と端部（一般部）とのデザインや素材を切り替えてしまうと、白山のダイナミックさを表現することも難しいと考え、関係者との綿密な調整を重ね、中心部と端部を同一なデザインとし、正面に迫り出したダイナミックなフォルムを実現した。

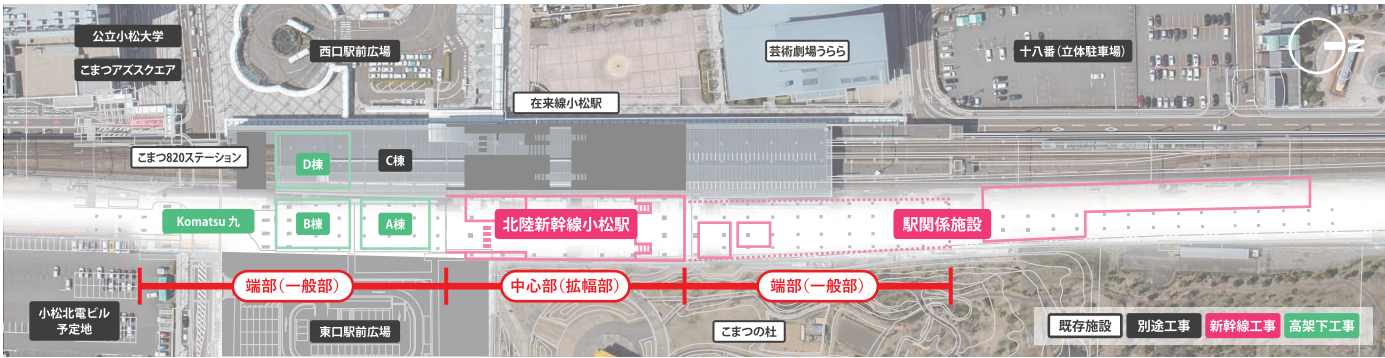
## 外装の意匠を内装に引き込む

外構のカーテンウォールの斜め状の枠に内装の天井材（木製ルーバー）を擦りつけ、外観の多面的な立体感を内部に引き込んでいるのも特徴。これによって、駅舎全体のデザインが調和するとともに、単調になりがちな駅のコンコースに抑揚を持たせた。さらに利用者が構内を移動する際に、多様な天井面の傾き具合を感じられるように、

天井照明の設置も熟考。ルーバーの間に勾配に沿ってランダムに配置したことで、各面が存在感を発揮している。



コンコースの開口部。山並みの形はコンコース天井面の傾きにつながる



軒を迫り出すことで、駅の顔をよりダイナミックに表現



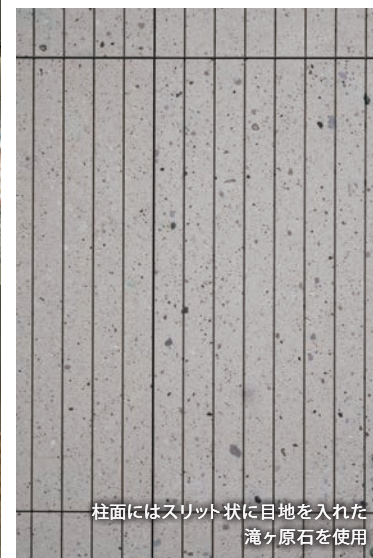
外装で表現した多面性の効果を木製ルーバーで内に引き込み、デザインに統一感を持たせた



勾配のある木製ルーバー天井が特徴的なコンコース。窓からは、コンコースに面した「こまつの杜」の借景が楽しめる



旅客上家の小屋組みは、線路直交方向の構造をすっきりさせた



柱面にはスリット状に目地を入れた  
滝ヶ原石を使用



待合室の柱には小松市にて九谷焼の器を展示



日華石を用いた日除け

## 文化や歴史に触れ合えるコンコース

インテリアには、未来につなげていくべき普遍的な「小松らしさ」を利用者と共有したいという考えのもと、地場産材を多用した。前述した天井のルーバーも地元品種の日用杉である。その他、「こまつの杜」の緑が楽しめるコンコースのガラス部に日除けとして配したのは、白山の火山灰が堆積してきた日華石。柱には、日華石と同様の凝灰岩である滝ヶ原石を選定、また、色鮮やかな九谷焼を小松市にて設置し「こまつ的美」を表現している。いずれも、地元の人々が誇りとしている、地域に根付いた素材と工芸品。駅を利用するたびに、そうした文化や歴史に触れ合ってもらいたいという狙いだ。

## 開口部から白山の山並みが望めるホーム

「小松らしさ」は、ホームでも体感することができる。連なる山並みの形に切り取られた開口部から見えるのは、小松市の産業発展の象徴ともいえる建設機械メーカーが造る超大型鉱山用重機。その奥には、街並み越しに白山連峰が雄大な姿を見せている。構造としては、上家全体が重々しくならないよう、線路直交方向の大梁と小梁のせい・幅を揃え、白山の見える東側へ開けていくイメージを持たせた。ホームに降り立った途端、あるいはこの駅から旅立つ直前まで、小松の文化・歴史、そして自然を体感することができる。

## いかた 居方を問わないゆとりあるベンチ

小松駅のコンコースは高架下に設置されているためスペースに恵まれている。そんなゆとりある環境に、駅舎によく用いられる効率重視の個別のベンチはそぐわないと、巨大な正方形の木製ベンチを提案した。居方の制約を緩め、利用者に寛容に接するスペースを設けることができれば、駅がもっとおらかな場所になるのではないかという思いの具現化だ。待合室の中央や、四隅に配置されたベンチは、車いすや高齢の方、大きな荷物を抱えた方にも十分な通路幅員を確保している。例えば、複数人でゆったり座って、パンフレットや土産物、弁当などを広げ、旅の期待感あるいは思い出を語り合うといった活用で、小松への愛着を強めてもらえたらと願う。



案内サインは、JR西日本のマニュアルを順守した上で、柱の一部を縦に使うデザインを提案

## PROJECTS 北陸新幹線 小松駅

当社HPでも同物件のご紹介をしております。ぜひ、ご覧ください。



## 北陸新幹線 小松駅

|      |                                       |
|------|---------------------------------------|
| 所在地  | 石川県小松市                                |
| 用途   | 駅舎                                    |
| 建築主  | 鉄道建設・運輸施設整備支援機構北陸新幹線建設局               |
| 施工   | 奥村組・トーケン・中東 北陸新幹線<br>小松駅新築特定建設工事共同企業体 |
| 敷地面積 | 9,639.54㎡                             |
| 建築面積 | 1,356.81㎡                             |
| 延べ面積 | 1,342.61㎡                             |
| 階数   | 地上1階                                  |
| 構造   | S造                                    |
| 開業   | 2024年3月                               |
| 〈担当〉 |                                       |
| 統括   | 木崎裕一                                  |
| 建築   | 渡部真彰、伊藤敦*                             |
| 構造   | 仲谷美咲、中橋芳貴、下山拓也                        |
| 設備   | 神津絵里菜                                 |
| 積算   | 上箇智訓、古宮成高                             |
| サイン  | 齊藤直子                                  |
| C G  | 池松祐一<br>(*は元社員)                       |